



2022年12月 現在

FUJITSU Software

Interstage Business Application Server Enterprise Edition V13a (V13.0.0)

本製品は、ミッションクリティカルな業務システムを構築するための基盤製品です。業務システムの安定性、安全性、柔軟性を実現します。アプリケーションの処理状況を記録する堅牢性の高いログ機能や、ミッションクリティカルなアプリケーションの開発を効率化する機能を提供しており、Java/C/COBOLによる業務システムのシステム構築が可能です。

- **サーバ運用時**

SPARC Servers / SPARC Enterprise Mシリーズ / SPARC Enterprise Tシリーズ / パブリッククラウド

- **開発時**

PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / PRIMERGY / FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / パブリッククラウド

- **クライアント運用時**

PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / パブリッククラウド

- **サーバ運用時**

Solaris 11(64bit)

- **開発時**

Windows 11(64-bit) / Windows 10(64-bit) / Windows 8.1(64-bit) / Windows Server 2022(64-bit) /
Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit)

- **クライアント運用時**

Windows 11(64-bit) / Windows 10(64-bit) / Windows 8.1(64-bit) / Windows Server 2022(64-bit) /
Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit)

1. セールスポイント

1. 業務システムの短期構築

Webアプリケーション構築支援機能など、ミッションクリティカルな業務システムの短期構築を実現する機能を提供しています。

2. 高信頼性ログ機能

アプリケーションの処理状況等を記録するための堅牢性の高いログ機能(高信頼性ログ)を提供します。高信頼性ログは、業務処理の履歴の保管や、トラブル時の解析情報として使用できるため、業務システムの可視化を支援します。

2. 機能詳細

1. 業務システムの短期構築

ミッションクリティカルな業務システムの短期構築を実現する機能を提供しています。

・マルチ言語のサポート

Java/C/COBOLでミッションクリティカルなシステム構築が可能です。これにより、Java/C/COBOLでミッションクリティカルなシステム構築の生産性向上が図れます。また、Java/C/COBOLの既存資産の有効活用が可能となります。

・実行制御ロジックのカスタマイズ機能

実行制御ロジックをシステムの要件にあわせてカスタマイズすることにより、業務ロジックの独立性を高め、より柔軟なシステム構成に対応します。

2. 安定稼働

業務の異常等に対応し、業務の安定稼働を実現する機能を提供します。

・モニタリング

業務アプリケーションの処理遅延などを早期に検出し、業務アプリケーションを自動的に実行する機能を提供します。これにより、高負荷時などの業務停止や業務遅延を回避することができます。

・性能情報の収集・監視・分析

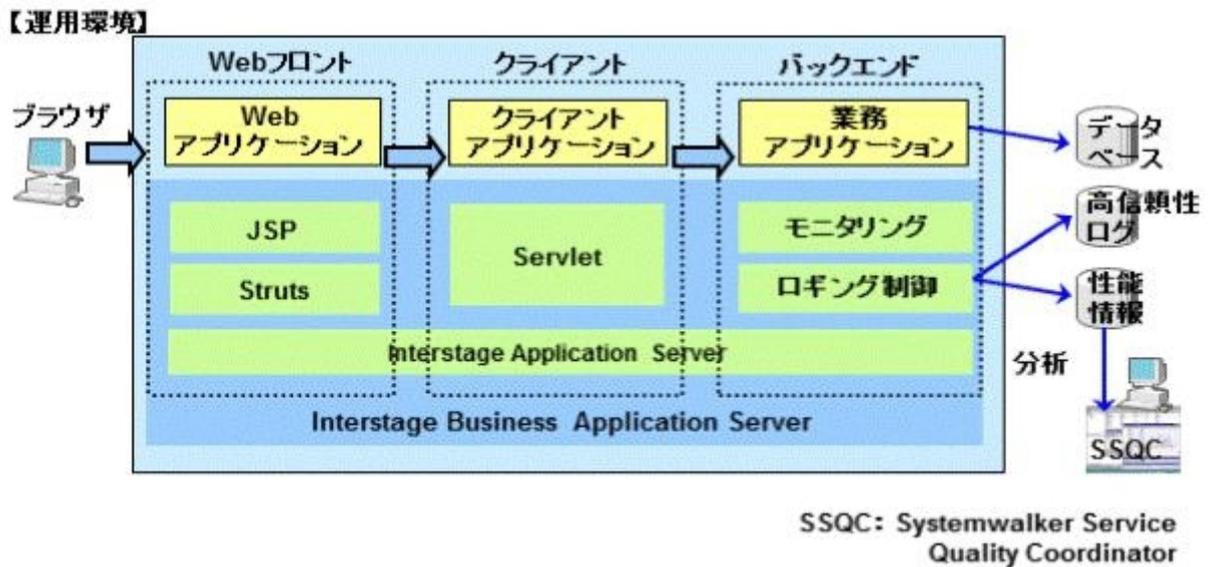
セッション単位に、システムログ、通信ログ、性能ログを採取します。各種ログは、Systemwalker Service Quality Coordinatorにより収集、性能監視、分析が可能となります。これにより、複数のサーバにまたがった業務の性能分析を簡単に行なうことができます。

3. データ保全

業務の異常等に対し、データの整合性や安全性を保証する機能を提供します。

3. 利用による効果

・Java/C/COBOLによるミッションクリティカルな業務システムの構築が可能です。



V12.1.0からV13.0.0の機能強化項目は以下のとおりです。

1. 標準Javaフレームワークの強化

最新のWebアプリケーション技術を搭載したJavaフレームワーク(Spring Framework)に、基幹システム構築に必要な機能と標準技術を融合し、ミッションクリティカル業務システムの構築と安定稼動を実現します。

2. Jakarta EE対応

Jakarta EEに対応します。

標準添付品

- ・ オンラインマニュアル
 - ・ Interstage Business Application Server オンラインマニュアル

【メディア】

・ Interstage Business Application Server Enterprise Edition メディアパック (64bit) V13a (V13.0.0)

【ライセンス】

・ Interstage Business Application Server Enterprise Edition プロセッサライセンス(1年間24時間サポート付) V13a

本商品のライセンス製品には、初年度の「SupportDesk Standard」がバンドルされています。

1. メディアパックについて

メディアパックは、媒体(DVD)のみの提供です。使用权は許諾されておりませんので、別途、ライセンスを購入する必要があります。また、商品の導入にあたり、最低1本のメディアパックが必要です。

バージョンアップ/レベルアップを目的に本メディアパックのみを手配することはできません。

2. ダウングレード使用（旧バージョン商品の使用）について

本商品のライセンスでは、ダウングレード使用（本商品の旧バージョンを使用）する権利はありません。対象のバージョンを使用する場合は、対象のバージョンに対応したライセンスをご購入ください。

3. プロセッサライセンスについて

プロセッサライセンスは、本商品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下のとおりに必要となるライセンスです。

- ・シングルコアプロセッサの場合は、1 プロセッサ（COD モデルの場合はCPU RTU ライセンスを持つ1 稼働CPU）あたり1 本の購入が必要です。

- ・マルチコアプロセッサの場合は、コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。

- SPARC M12/M10では、CPU コアアクティベーションキーにより有効化されたコアの総数に特定の係数を乗じます。

- SPARC Enterprise/PRIMEPOWER のCOD モデルでは、CPU RTU ライセンスを持つ稼働CPU 上のコアの総数に特定の係数を乗じます。

マルチコアプロセッサにおける係数については、「関連URL」に記載の「ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）」内、「ライセンスについて、くわしく知る」を参照ください。

4. クライアントソフトウェアについて

Interstage Business Application Server V13a クライアントソフトウェアは、複数台のクライアントにインストールすることができます。

注：本商品では、同梱しているInterstage Application Server Enterprise Editionのクライアント機能を使用しています。

5. クラスタシステム(1:1運用待機形態)運用時の購入方法

2ノードを1システムと考えて、1システム分のライセンスを購入してください。

6. V7.x以降からのバージョンアップについて

Interstage Application Framework Suite Enterprise Edition 7.xおよびInterstage Business Application Server Enterprise Edition 7.x以降をお持ちの場合は、有償サポート・サービス「SupportDesk」のサービスの一環として、最新バージョン/レベルを提供いたします。（お客様からのご要求が必要です。）

「SupportDesk」を導入されていない場合は、新バージョン/レベル商品を改めてご購入頂く必要があります（価格の優遇はございません）のでご注意ください。

なお、「SupportDesk」の詳細については、「関連URL」を参照してください。

1. アプリケーションを開発する場合

[アプリケーション連携実行基盤の使用時(*1)]

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ V12.0以降(Windows)
- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ V10.5以降(Solaris OS) (*2)
- Sun Studio 11/12 (Solaris OS) (*3)

(*1)アプリケーション連携実行基盤を使用時

(*2)COBOLで作成されたアプリケーションの翻訳時に必要です。

(*3)C言語で作成されたアプリケーションの翻訳時に必要です。

2. アプリケーション連携実行基盤を運用する場合

[COBOLで作成されたサーバアプリケーションとの連携時]

- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ V10.5以降
- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ V10.5以降

3. 連携可能なデータベース

[アプリケーション連携実行基盤の使用時]

- Oracle Database R12.2.0, 19
- Symfoware Server Enterprise Edition V12

[オープンJavaフレームワーク機能の使用時]

- Oracle Database Standard Edition R12.2.0, 19
- Symfoware Server Enterprise Edition V12

4. ホットスタンバイ運用(1:1運用待機)を行う場合

- PRIMECLUSTER Enterprise Edition 4.2A, 4.3A

1. Java実行環境

本商品では、以下のOpenJDKを同梱しています。Javaアプリケーションを実行する場合は、本商品に同梱しているOpenJDKを使用してください。

- ・ OpenJDK 8

2. クライアントのWeb ブラウザについて

クライアントでは、HTML4.0対応のWebブラウザが使用可能です。Webブラウザは以下を使用してください。

- ・ Microsoft Edge(IEモード) (注)

注) デスクトップ用Microsoft Edge(IEモード)での利用が可能です。

3. Interstage Application Server 製品の購入について

本製品には、Interstage Application Server Enterprise Edition V13の機能相当が組み込まれているため、同製品を購入する必要はありません。

4. 他製品との組み合わせについて

本製品は以下の製品がインストールされているシステムにインストールできません。

InfoDirectory

InfoProxy for Middleware

InterAPLINK

Internet Navigware Server

Interstage Application Framework Suite

Interstage CollaborationRing

Interstage Data Collector

Interstage Job Workload Server

Interstage List Manager

Interstage List Works

Interstage Security Director

Interstage Service Integrator

Interstage Shunsaku Data Manager(V7.0)

Interstage Traffic Director

Interstage Web Server

Java版 Meridio

ObjectDirector

PKI Manager

Softek AdvancedCopy Manager

SymfoWARE Parallel Server

Symfoware Server (注)

Systemwalker InfoDirectory

Systemwalker Network Manager

Systemwalker Network Topology Manager

Systemwalker PKI Manager

Systemwalker Resource Coordinator

SystemWalker/ListWORKS EE

SystemWalker/PerfMGR

5. DR(Dynamic Reconfiguration)機能およびCoD(Capacity on Demand)機能と組み合わせて使用する 場合の留意事項

DR、CoDでCPU構成変更時

JavaVMの"-XX:"で始まるヒープチューニング用オプションを使用する場合、以下のオプションの範囲で使用してください。

-XX:PermSize

-XX:MaxPermSize

-XX:NewRatio

-XX:NewSize

-XX:MaxNewSize

-XX:SurvivorRatio

また、シングルプロセッサ マルチプロセッサ/マルチプロセッサ シングルプロセッサとCPU数が変化する場合はJavaプロセスの停止後、構成変更を行ってください(マルチプロセッサ マルチプロセッサの場合はJavaプロセスの停止は不要です)。

DR、CoDでメモリ構成変更時

JavaVMの"-XX:"で始まるヒープチューニング用オプションを使用する場合、以下のオプションの範囲で使用してください。

かつ、Javaプロセス停止後、構成変更を行ってください。

-XX:PermSize

-XX:MaxPermSize

-XX:NewRatio

-XX:NewSize

-XX:MaxNewSize

-XX:SurvivorRatio

6. non-global zoneでの利用について

本製品をnon-global zoneで使用し、かつ、クラスタシステム運用する場合は、本製品の高信頼性ログServer機能をインストールしないでください。

7. 32bit版のメディアパックについて

V12から32bit版のメディアパックの提供はありません。

8. V12との差異について

(1) 以下OSは動作OS対象外となりました。

- Oracle Solaris 10
- Red Hat Enterprise Linux 6
- Windows Server 2012
- Windows Server 2012R2
- Windows 8.1(32bit)
- Windows 10(32bit)

(2) Interstage Studioは同梱していません。

(3) 非同期アプリケーション連携実行基盤機能がサポート対象外となりました。

お客様向けURL

- ・ **ソフトウェア：富士通（Interstage Business Application Server）**

本商品の詳細は、以下のInterstage Business Application Serverホームページを参照してください。

<https://www.fujitsu.com/jp/software/interstage/bapserver/>

- ・ **ソフトウェア：富士通（ソフトウェアの一覧表（システム構成図）と各種対応状況）**

価格/型名の一覧（システム構成図）を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/condition/configuration/>

- ・ **ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）**

「ライセンスについて、くわしく知る」の項で富士通製ミドルウェア製品のライセンスに関する解説、サポート期間などの情報を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/information-download/>